



同志社大学文化情報学研究科開設記念講演会(2007年11月3日)

著者	同志社大学文化情報学会
雑誌名	文化情報学
巻	3
号	1
ページ	44-45
発行年	2008-03-31
権利	同志社大学文化情報学会
URL	http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000011739

同志社大学文化情報学研究科開設記念講演会（2007年11月3日）

式次第

八田英二学長挨拶

村上征勝文化情報学部長並びに研究科長挨拶

御講演者紹介

寺島実郎氏御講演

鳩山由紀夫客員教授講演

司会：本日は同志社大学文化情報学研究科開設記念講演会にお越しいただきましてありがとうございます。司会の学部・研究科研究室主任の矢野でございます。式次第といたしましては、最初に同志社大学八田学長よりご挨拶を申し上げます。ついで村上文化情報学研究科長より文化情報学研究科の設置趣旨等を申し上げます。引き続き、今回のお二人のご講演者関係の画像を、スクリーンを用いてご紹介させていただき、講演会に入らせていただきます。それでははじめに、同志社大学八田英二学長よりご挨拶を申し上げます。

学長：ただいまご紹介に預かりました同志社大学学長の八田でございます。同志社大学大学院文化情報学研究科の開設記念の講演会へ、大勢の皆様方にお越しいただきましてありがとうございます。同志社大学は二つのキャンパスで教育・研究活動を展開しております。京田辺キャンパスでは約1万5000名、今出川キャンパスでは約1万名の学生が在籍しています。京田辺キャンパスには現在、文化情報学部と工学部の二つの学部がございまして、文化情報学部は今年度で開設3年目を迎えております。そして大学院である文化情報学研究科が今年度開設されました。また、来年には生命医科学部とスポーツ健康科学部が京田辺校地に設置されます。更に2009年度には心理学部もこちらで開設を予定しており、2009年度以降は5つの学部が京田辺校地において教育・研究活動を展開いたします。その5つの学部の中で重要な一つが文化情報学部、そしてその高度な研究を行うのが文化情報学研究科でございます。いろいろな成果を発信していくつもりでございます。これからもあたたかいご支援とご理解を賜ればと思います。

本日は日本総合研究所の寺島実郎会長、そして文化情報学部の客員教授でもある民主党の鳩山由紀夫幹事長にお越しいただきました。厚く御礼申し上げます。限られた時間でございますが、皆様とともに有意義な時間を持っていただくことを祈念いたしまして、学長としての開会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

司会：学長、ありがとうございます。続きまして村上

征勝文化情報学部長並びに研究科長より研究科の案内をさせていただきます。

村上：ただいまご紹介いただきました村上でございます。講演に先立ち、文化情報学研究科について簡単にご紹介させていただきます。この4月に文化情報学部に大学院の文化情報学研究科を設置いたしました。文化情報学というのは一口で言いますと、文化を科学するという学問分野と言ってよいと思います。大学院の文化情報学研究科では、人間の精神的・知的活動の表現としての文化にかかる現象を、感性・知性・科学などの多様な視点からとらえ、異なる領域の融合をめざします。学際的で、高度な研究活動を展開することで、時代が求める新たな学問分野を開拓すると同時に、広い視野を持ち、柔軟な発想力、高い問題解決能力等を身につけた研究者や専門職業人の育成を目指しております。

文化情報学研究科には4つの研究領域があります。個々に簡単にご紹介します。

「数理的文化解析領域」では文献・言語・絵画・伝統芸能などの文化事象をデータ解析の手法を用いて数量的な観点から研究します。

「感性的文化解析領域」は、人間の感性という観点から感性の測定・解析、異文化間での感性的文化表現の影響などについて研究します。

「科学的文化解析領域」では、文化の発展・伝播の数理モデルや、書籍・絵画・陶磁器などの物理的、科学的解析方法について研究をします。

「文化解析基礎領域」では、文化解析の基礎となるデータの生成法や高度なデータ解析について研究します。

入学定員は博士課程（前期）15名、博士課程（後期）2名です。すでにこの春入学しました9名の大学院生が研究を行っております。来年の4月に、文化情報学という学問分野を切り開こうと意欲に燃えた大学院生がたくさん来られることを望んでおります。

なお本日の開設記念講演会の開催にあたりましては、日本総合研究所会長の寺島実郎先生と、本学部の客員教授で民主党幹事長の鳩山由紀夫先生が、ご多忙にもかかわらず、快く講演を引き受けてくださいました。お2人の先生をお迎えして、ここに講演会を開催できますこと、文化情報学研究科並びに文化情報学部としまして、大変うれしくことであり、感謝しております。寺島先生、鳩山先生、ありがとうございます。簡単ではございますが、これで文化情報学研究科のご紹介を終わらせていただきます。

司会：ありがとうございました。ただいまのような趣旨によって設立され、すでに稼働中の研究科の開設を記念いたしまして、本日、寺島様、鳩山様のお二人の講演を賜ることになっております。

寺島実郎様は日本総合研究所会長で、三井物産戦略研究所所長、役員も務めておられます。寺島様は同志社大学と提携関係にごぞいます早稲田大学の大学院を修了され、その後、三井物産に入社されました。三井物産の初代社長は、多くの方がご存じだと思いますが、益田孝という方であり、明治9年に三井物産を設立し、海外拠点を順次作った先見の明のある方です。所持していた黒楽茶碗、銘鈍太郎から「鈍翁」と自分で号をつけ、近代数寄者として著名です。茶道具の名物の研究についても、文化情報学研究科の後期課程の大学院生が、今、鋭意研究しております。なお、寺島様はマスメディアに、NHKのみならず、民放にも幅広くご出演しておられます。

次に鳩山由紀夫客員教授は、いうまでもなく民主党幹事長であります。お育ちの家はこの建物（注：パワーポイントの画像を指示。以下同じ）でございます。そしてこれは建物の一室で、鳩山一郎氏と過ごしておられるところです。右が弟様でございます。後にスタンフォード大学大学院で学位を取得されました。専門はオペレーションズ・リサーチです。これがスタンフォード大学であり、同志社のレンガと共通しております。何となく色も似ております。以上、少しだけ紹介させていただきました。

それでは第一のご講演、寺島実郎様から「データで明らかにする 21 世紀の世界潮流」をお願い申し上げます。

寺島様は早稲田大学ではアジア大西洋の研究センターの客員教授も務めておられ、文部科学省関連の中教審委員、経済産業省情報セキュリティ基本問題委員会委員長なども兼任されています。御著書もいろいろございます。

では寺島実郎様、よろしく願いいたします。

●寺島実郎氏御講演（本誌 32 ～ 38 ページに掲載）

司会：寺島様、どうもありがとうございました。データをもとに議論するという点については、文化情報学部 of データサイエンスも、それを主旨としております。また、お話に出てきたドバイについていえば、日本文化の正しい紹介を行って貰いたいという要請が、文化情報学部にもまた相談がございました。

寺島様のお話にもロシアが出てきました。鳩山様は日本ロシア協会会長も務めておられます。それでは衆議院議員民主党幹事長の鳩山由紀夫客員教授をご紹介申し上げます。よろしく願いいたします。

●鳩山由紀夫客員教授講演

司会：お二人のご講演、ありがとうございました。

本日は文化情報学研究科開設記念講演会にお越しいただきまして、ありがとうございました。本日 500 人が入るように用意しておりましたが、約 100 人の方には立席のままお聞きいただくことになったことをお詫び申し上げます。それではこれにて閉会させていただきます。ご静聴ありがとうございました。